

---

# 「名探偵コナン」～素直になれない！～

A.I

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

「名探偵コナン」〜素直になれない!〜

### 【Nコード】

N1599B

### 【作者名】

A・I

### 【あらすじ】

クリスマスが近づいてきました。近づいてくるにつれて、コナンは、歩美ちゃんに、何をプレゼントしようか悩みます・・・

## プロローグ

灰原と、歩美は、恋愛感情について、アガサ邸で話をしていました。もうすぐ12月。クリスマスが近づいてくるにつれて、歩美ちゃんがこの頃、態度が少し、変化していました。恋に対して、素直になってないのです。

「男なんて、大嫌い！」歩美は、後ろ向いて、プイしたのです。

「あらあら。どうして・・・そんな・・・絶対、ウソよ。」

哀は、「コナンくんでも、じゃあ、例えば、デートしようとか突然、言われたらどうする??」

「分らないわよ」って、哀は、彼女をけしかけました。

「えっ!」どきっ・・・歩美は、固まって、顔真っ赤。

哀は、「やっぱりね。あなた、江戸川くんのこと、好きなのよ。

だから、素直になれず、嫌い〜なんて言い出すんだわ。

困った子ね。」と、彼女に、江戸川くんとこ行こうって、誘いました。

「やーだー・・・」歩美は、顔真っ赤で、トコトコと、灰原の後ろへ隠れてしまいました。

哀は、クスクス。コナンは、「?」漫画を読んでいて、彼女達の微妙な変化に気がつきました。コナンは、「・・・」彼女達の側にやってきました。

哀は、こんな懐かしい歌を歌いだしました。

哀は、昔、自分が、小学生だった頃、宮野志保としての。

漫画で、「はいからさんが通る」を思い出したのです。

今の彼女はそれの、まるで、花村紅代みたいと、心の中で思いまし

た。

彼らの前で歌いだした灰原。

「好きな人には♪素直になれず♪悩み多き年頃です♪今の吉田さんには、マサにこれね。

彼女のこと、気がついてあげなさいよ・・・江戸川くん・・・」

と、歌いながら、灰原は、コーヒー入れていました。

「おいおい・・・俺は、一体何だよ・・・」

少尉様ってか・・・やめてくれ・・・」コナンは、漫画を読んでいた  
ので、そんな歌やめてくれと言いつつ出した。

「ねえ・・・そのはいから・・・って、何なの???」歩美は世代が育  
っていないから知らないんだ。

灰原は、「あつ！いいの。むかーしの漫画よ。むかーしね、「はい  
からさんが通る」なんて、漫画があつたのよ！図書館で読んだこと  
があるの。アガサ博士にでも、聞いてごらんなさい？」と、彼女に  
あらすじを、説明しました。

「ふーん・・・」歩美は、わけも分らず、後で、アガサ博士に聞い  
てみた。

「おう！知ってるぞい！！なるほどのう！コナンくんが、少尉様つ  
てかのう！」

と、笑い出す、博士だった。確かに確かにと、博士は笑いながら、  
恋のキューピット役に回りました。「コナンくん！たまには、気持  
ちを悟ってやれ！たまには、デートにでも、誘ってやったらどうじ  
ゃ??」と、博士は、背中を押し、

笑いながら、歌いながら去って行きました・・・

「俺の気も知らないで・・・」コナンは、漫画を読んでいましたが、今度、クリスマスが近づいてくる。彼も彼なりに、一応・・・たまには、俺から、何かしてやろうか・・・と、実は、密かに、考えていたのです・・・

それが、見つからないのに、コナンも、苦しんでいたのです・・・

・  
悩んでいるうちに、クリスマスがやってきてしまいました・・・

## 第1章

コナンは、思い切って、彼女を誘いました。

それは、クリスマスの1日前のこと。

それは、2人きりで、「トロピカルランド」の、夜・・・新しく始まった、イルミネーションとパレードを見に行かないかと誘いました。

アガサ博士から、温泉旅行の、ホテル・・・チケットもらって、保護者名が、あがさになっていることも、彼は話しました。博士がついていくと、言い出し・・・

博士は、ホテルで待機してると、言っていたからって・・・話したのです。

彼女は、「・・・」顔真っ赤。おそろおそろ、チケットを、受け取りました。

何も言わず、逃げるようにして、去っていく彼女。

コナンは、「ふ・・・やれやれ・・・」と、腰を下ろしました。

「相当ね。彼女。どうするの？江戸川くん・・・」哀は、笑いながらかわいいと言いました。「男としては、あーやって逃げられると、ホツとけねーよな・・・逃げれば逃げるほど、男つてのはな・・・気にしてな・・・」コナンは、男としての理性が芽生えていました・・・

「やっぱり、男ね。江戸川くんも・・・」哀は、笑いながら後はしつかりねと、彼に言つと、  
出て行きました・・・

こうして、クリスマスの日が、いよいよ、やってきました……

クリスマスの日。

アガサ博士は、「ワシは、ホテルで待ってるから。

後は……2人で楽しんでおいで。」と、2人きりにさせました。

歩美は、「あつ！ちょっと……博士……行っちゃうの……

」

と、ため息。「何だよ。俺が相手じゃ、不安か？俺は、男だぜ。

男嫌いとか、灰原に話していたそうだけど……

怖いのか？」「コナン少しだけ、にらみつけた。

「そういうわけじゃないけど……」歩美は、顔真っ赤になったまま、ひとまず、コナンと一緒に歩き出しました。

どうしても、素直になれない、彼女。

コナンは、まず、彼女を、-30度の、アイスワールドに、誘いました。

そこで。

歩美は最初、「ここは、絶対ウソウソだ。-30度なんて、絶対、

ウソに決まってるよ！行こう！コナンくん！」と、中に入りました。

「そうかな？俺、知らないぞ。」コナン。

「ギャー……」歩美は、「寒い、寒い！」と、叫びながら、非常口から逃げ出した。

コナンは、中に入るんだけど、奥へ。彼女がいらないことに気がついて、

「おいおい……」と、笑いながら、一緒に出てきて、300円損したのだった。

コナンは、外で、おなかを抱えて笑っている。

「もう！！」歩美。「ごめん、ごめん・・・」笑いながら言う、コナン。

コナンは、ニヤニヤしながらも、次は、ホラーハウスを発見！

ここは、テレビで放送されたくれー怖いんだよね・・・

彼女は、幽霊とか、お化けとかマジ苦手だからな・・・

チャンスだぜ！！ここで、男ナシでは生きていけないことを、教えてやる！！

コナンは、素直にさせてやると決断を下した・・・

女の子が苦手そうなものを、彼は、探していました。

あるある！ジェットコースターも、彼女苦手だからな・・・

そして、ジェットコースターも、入ろうと思ったんだけど、さすがに、人がすごくて、

並ぶのも、大変で、「すいたとこいこうか・・・」と、歩美が言い出したから、

ジェットコースターは、アウト。残念・・・

コナンは、クソつと、舌打ちし、探した。

見つけて、立ち止まると、「ねえ！ここ、入ろうよ！」と、笑顔で、彼女を誘いました。

「お化け・・・屋敷・・・」歩美は、困り果てていました・・・

ここで、大変なことに遭遇するとは、誰も想像しなかった・・・

おばけ屋敷の入り口付近：

「怖い・・・」歩美はその場で固まる。

「行こう!!」コナンは、ワクワクしながらも、彼女の背中を押し、中に入りました。

その受付の人が、「かわいい!」と、笑っていました・・・

そこで、まさかの、犯人が、おばけ屋敷に潜んでいたとは、誰も想像していません。

トロピカルランドに、ある、フリーターの男が、現金を奪って逃走したニュースが報道されていました。そのフリーターの強盗の男が、お化け屋敷に潜んでいたのです・・・

そこで大きい事件に発展します・・・

## 第2章（前書き）

犯人の恐ろしい心理を描きます。

## 第2章

ここは、お化け屋敷の中。逃走中の犯人は、井戸の中に潜んでいました。コナンと歩美は、井戸の方へ歩いて行きました。すると、警察に怯えていた犯人は、中から、お化けの姿で包丁持って、現れました。

「お化けだぞ。警察を呼ぶな。」

犯人は、怯えていて、包丁で、歩美ちゃん人質にしました。歩美は、「ギャーッ」

と泣き叫んでいます。コナンは、

「今、助けてやるからな！」

とサッカーボールを取り出しました。靴に手をスイッチ入れようと、青ざめました。

「あつ！しまった！靴がホテルに！」

そう、今日はデートなんだから、武器は必要ないと思ったのです。博士に預けてしまっていたのです。武器はないかとコナン、血相変えて探しました。竹刀が運よく、傘立てに入っていたので、持ち出すと、

「歩美を返せ！やあー！めーん！どーう！平次兄ちゃんに教えてもらった技をくらえ！！」

と、コナンは、叫びながら、立ち向かって行きました。

犯人は、頭の上に運がよく、命中し、ダウン。

気絶している間に、彼は、「早く！」と、彼女を、お化け屋敷から、連れ出したのでした。

ホテルへ、猛烈ダッシュで、逃げる、2人……しかし。

犯人は、後から追いかけてきたのです。

「わっ！」コナンと歩美は、ホテルへ、逃げ込みました……

「にひひ・・・あいつらは、ここに泊まるのか・・・よし・・・」

犯人は、再び、ホテルの中に入りました。

ホテルで、犯人は、受付で、登録してもらっていたので、コナンと歩美は、血相変え、

2人で、固まって、ゴニョゴニョ・・・

「どうするの？コナンくん！警察に知らせようか。」歩美青ざめて、怯えている。

「バーロー！警察に知らせてみる。俺達は子供だぞ。」

犯人ですって俺達が騒いだところで、警察からは、いたずらだと、いうことで、終わっちまうだけだ。アガサ博士に全部事情を話すんだ。そして、なるべく、部屋で今夜は待機しよう。」

コナンは、彼女を連れて、そっと、エレベーターへ・・・

まさかの、犯人も、ベルガールに連れられて、エレベーターが一緒だった・・・

犯人は、冷たいまなざしで、固まっている2人を、にらみつけては、笑っていた。

そして、エレベーターから降りると、部屋を案内した。

何とー！コナンは、「アガガガ・・・」怯えて血相かえる。

「ウソ・・・」歩美は、コナンの後ろで涙目だ。

部屋が、隣同士だった・・・

そして、コナンと、歩美は、隣で、逃げるようにして、自分の部屋へ戻った。

犯人は、「……………」冷やかな目で、薄笑いしていた・

2人は、部屋に入るとそれはもう、血相変えて、「ハアハア……博士……!」

と叫んだ。「どうしたんじや、2人共……まあ、お茶でも飲んで落ち着かんか。いい眺めだぞい。」博士はのんびりしている。

「のんびりしている場合じゃねーよ!わー!窓しめろー!」

コナンは、騒ぎ出し、窓を閉めた。

「何じゃ……………」博士は、一体どうしたんじやと、理由を聞き出した……

そして、話を聞いた、2分後。

「なーにー!?」博士は、あたふたで、警察に電話しようとした。

「ダメ!」コナンは、俺達で、捕まえようぜと、博士に指示した……

もう、今夜は、ここから、出ない方がいーな……

コナンは感じたので、歩美に、風呂はここで、入れ!と指示。

歩美は文句をもらしていたけども、俺は、「ダメだ!」ジューズ買いにいくことも、ゲームセンターなんて!もつての他だ!おみやげコーナーも、禁止!」と、猛烈に怒鳴った。

歩美は、さすがにしゅるんとして、べーしながらも、風呂に入ってくれた。

と思っただけど。

歩美は、風呂に行くふりをして、部屋の外へ……

俺は、「まさか!あいつ!」

驚いた。歩美がいなかった。

博士に「俺、助けに・・・」と、言い残し、外へ出て、歩美を探しにコナンは向かった。

博士は、警察に連絡をしていた・・・  
そこには、恐るべき出来事が待ち受けていた・・・

歩美は、ゆかた姿で、犯人に胴ごと、持ち上げられていた。  
犯人は、「死ねー！！」と、歩美を、持ち上げたまま、壁に向かって投げた。

「はっ！！！！歩美ちゃん！！」コナンは、猛烈血相を変えた・・・  
・ひどすぎる！！

「ギャーーーー！！」歩美は、泣き叫んでいた・・・

犯人は、歩美ちゃんを、そのまま、壁に向かって投げた！！  
歩美ちゃんは、ドガッ！！壁にぶつかり、頭の後ろを打ったらしく、バタッ・・・  
そのまま、気絶しました・・・

「女の子虐待はやめるーーーー！！  
これでも、くらえ！！！！」

コナンは、涙をこぼし、怒り。  
大急ぎで、履き替えてきた、キック力、増強シューズで、ドガッ！！！！

サッカーボールを、思い切り、蹴飛ばした・・・

「うわっ!!」犯人は、サッカーボールが、モロに当たって、後ろへダウンした。

コナンは、「ハアハア・・・」落ち着きを取り戻すと急いで、歩美の側へ・・・

「歩美ちゃん!歩美ちゃん!!」

ゴメンね!!俺が、もう少し、早く・・・うつ!?

コナンは、助けようとして、再び立ち上がった、犯人により、捕まってしまった・・・

そして・・・

「うつ!くつ!」コナンは、そう、犯人から、「こいつめ!!かつこつけやがつて!!」

と、暴行加えられ、しかも、犯人の持っていた包丁が、彼のおなかに刺さった・・・

バタツ・・・コナンは、「ちくしょう・・・ごめんな・・・歩美ちゃん・・・」

コナンは、片方の手で、気絶する、瞬間、歩美に手を伸ばし、バタツと倒れ、出血多量・・・

地面には、血があふれた・・・

博士は、ロビーで血相変えて警察を呼んでくれ!と、事情説明。そこで、猛烈偶然に鉢合わせしたのは!!

「おお!蘭くん!毛利くん!!」博士は、運の月じゃと、いい、蘭に事情を話す。

「コナンくと歩美ちゃんが!？」

蘭は、猛烈ダッシュで、駆け込んでいった……

そこで、蘭が見たものは、出血多量で、倒れているコナン発見!!

犯人をにらみつける蘭。ひどすぎる!!

「よくも……子供達を……子供虐待して……許さない……ハアアア……」

蘭は、空手で、構えた!!

「じゃらくせえ!!」

犯人は、包丁を、ホテルで思い切り振り回す。

蘭は、「ハ——!!だ——!!!や——!!!」

空手で、蹴りや、パンチ連打!!!

「うわ——!!」

犯人は、ドタツ……今度こそモロに、気絶しました……  
まわりのお客さんは、何事だと、やってくるわで、大騒動。

「姉ちゃんすごいね……」お年寄り達に、囲まれて、蘭は、みんなから、  
尊敬された……

犯人は、後から来た、目暮れ警部に、捕まった・・・

犯人は、パトカーに乗り込むと、「今頃は、2人は仲良くあの世だぜ・・・」

と、ニヤニヤ。「ほれ！行くぞ！！お前なんて、死刑だ！！」目暮れは怒鳴っていた・・・

蘭は、「コナンくん！コナンくん！！」

と、涙ながらに叫びました・・・

こうして、コナンと、歩美ちゃんは、救急車で、2人米化病院へと運ばれて行ったのでした・・・

米化病院にまで、恐ろしい出来事が待ち受けているとは、誰が想像したでしょう???

次回へ続きます。

## 第2章（後書き）

まさかのコナンと歩美ちゃんが入院！？  
それも、病院にまで、次回は発展します・・・

### 第3章（前書き）

病院にまで、追い詰められた、コナンと歩美は無事に、助かるのか！？

### 第3章

ここは、米化病院。

蘭は、博士と、小五郎に、病院に付き添うと話すと、夜が心配だと小五郎も言いました。

犯人の個室の隣が、コナンと歩美ちゃんと2人部屋だったからだ。

夜中に何が起こつても不思議はない。

コナンは、おなかにささったけども、出血多量だけで、思っていたよりも、軽症で、命に別状はありませんでした。一命を取り止めたコナン。

歩美ちゃんが、横で、頭を打っていたので、網包帯姿で、寝ていました。

コナンは、笑顔で、「ダメだよ。蘭姉ちゃん・・・  
空手の大会がもうすぐ近いんですよ。

学校休んじゃだめ・・・僕たちのために・・・

僕なら大丈夫だよ。歩美ちゃんは僕が守る。

夜のことなら、心配しないで・・・」

と、横になつたまま、言いました。

「バーロー！」

そんな寝ている状態で、何が守れるってんだ？あ？

夜中に犯人が起き上がった、のこのこと、こつちの部屋来てみる！

俺は、それを想像したんだぜ。ちよつと、精神的におかしい犯人みてーだから・・・

何しでかすか、わからんぞ！」

小五郎は言いました・・・

「大丈夫だよ、おじさん！」コナンは、みんなに、大丈夫だから。帰って！と、指示を出した。歩美ちゃんと話がしたいからって・・・

・  
皆は、シブシブ反対しながらも、家に戻りました・・・どうなつても、知らんぞ！！で・・・

こうして、2人きりになった。

米化病院は、夜を迎えた・・・恐怖で恐ろしい夜を・・・

コナンと歩美の寝ている入院室は、2人部屋で、明かりがついていました・・・

「ごめんな・・・歩美ちゃん・・・気分はどう？」コナン。

「何言ってるのよ！あたしより、コナンくんのが、起き上がれないじゃないの！！」

歩美は、涙目で、泣きながら、怒鳴っている。

「大丈夫だよ。何かあれば、看護婦さん呼べるしね。

さあ、もう、今夜は寝よう・・・」コナンは、笑顔で言いました。

「そうだね！寝ちゃえば、パーッと次の日には、忘れちゃうよね！きつと！」

歩美は、笑顔で言うと、コナンは、「そうそう！寝るのが一番！！」と、言うともかりを消すぞと、コナンは、明かりを消しました・・・

しかし。裏で、コナンは、パジャマ姿で、目を光らせた。

やっぱり！！どうせ犯人は、夜中に絶対、入ってくる！！

俺達2人を狙ってるんなら、俺達からあぶりだしてやる！！

コナンは、作戦を練っていたのです。逮捕する方法を……歩美は、ネグリジェ姿で、楽しく会話をしているふりをして、「今度こそ、決着つけちゃおう!」

と、笑顔で言いました。歩美は、「寝よう!寝よう!」と言いながら、犯人の気をひく。

「そうだね!寝ようね!」コナンも同時に。笑顔。

そこで、2人は、ゴニョゴニョと、作戦を練り始めた……

「俺も、さっきのは……我慢ならねーからな!

この仕返しは、ぜってーしてやるぜ!!

俺が片付けてやる!ぬいぐるみ、布団の中に入れた?」コナン。「うん!入れたよ!」歩美。

「よし!じゃあ、今夜は、掃除道具入れの中で、2人で過ごすか。」コナンは、掃除道具入れをあけるとここは、秘密基地だと、いい、歩美を中に入れた……

ここで、犯人を待ち伏せしようというものだった……

こうして、明かりは消え、消灯時間となった……

恐怖の戦闘が、次回、始まるうとしていた……

廊下には、怪しい、風が……

犯人は、夜中になると、うろろろするんだ。

金属バットを手にした犯人は、さっきのガキめ……

と、持ったまま、ガチャっ……

真っ先に入ってきました・・・

コナンは、「来たな!!」と、いよいよ、戦闘開始!!  
と、歩美に告げると、歩美は、うなずきました。

コナンは、側で、「俺が、あいつを、ひきつけるから、歩美ちゃん  
は、急いで、  
外へ逃げるんだ!大丈夫。俺が、あいつを逮捕してみせる!!」  
と、笑顔で言いました。

「コナンくん・・・お願い、死んじやだよ・・・」歩美は涙目  
で言いました。

「バーロー!こんなところで死んでたまるかよ!  
俺が無事だったら、明日こそ、イルミネーション見ようぜ!」  
コナンは、笑顔で言うと、ついに、飛び出して行きました・・・

### 第3章（後書き）

次回から、いよいよ、戦闘開始！！  
まさに、死闘になります。

## 第4章（前書き）

犯人は、無事倒せるのか？？

## 第4章

犯人は、中に入ってきました。

暗い部屋の中へ。そして、ベットの側で、犯人は、金属バットを、上から振り落としました・・・

しかし・・・

中に入っていたのは、ぬいぐるみだ。

羽が・・・飛び出していました・・・

犯人は、「あのガキー！！」と、血相変えて叫んでいます。

実はこいつ、シンナーを吸っていた凶悪だったんだ。  
精神的にも、おかしくなっちゃった犯人だった。

コナンは、「ひっかつたなー！！」

と、ベットから、上に上がり、かつこつけて、飛び出しました。

側で、歩美ちゃんが、構えています。まるで、ヒーロー系みたいな  
感じで・・・

「きさまら・・・ぜってー殺してやるー！！」

犯人は、金属バットを手に大暴れしだした・・・

「うわっ！！」「ドガッ！！」

犯人は、何と、バットを真つ二つ……

コナンは、「おとと!!」運よく、空中一回点して、着地した……

「すご……」歩美はコナンみて啞然。

しかし、後で、コナンに最悪の事態が!!

「コナンくん……？まさか、傷が……」歩美は、あたしはどうするのよ!!

と、叫びだす。「キャア!!」歩美は、バットを何とか交わすと、逃げ出す。

「もう!!」歩美はコナンを連れて、外へ逃げ出しました……

「作戦は、どうなったのよー」と、叫びながら、歩美は、ロビーの方へ……

コナンは、「ハアハア……」後からついてきて、おなかから、また、血が出ていました。

「まだ、ダメか……」コナンは、後から追ってくる、犯人を見て、「歩美ちゃん……

こっちへ……」コナンは、ついに、最大の決断を下しました。

コナンと、歩美は、とりあえず、上手く外へ逃げ出すと、病院の、大きな木の裏に隠れました……

コナンは、「ハアハア……」座り込むと、おなかをおさえている。苦しそうだ。

「コナンくん？苦しいの……？」

血がべつとり・・・」歩美は怯えている。

「大丈夫だよ・・・命には別状ないって医者が行っていたんだ。でも、このままじゃ、また、気絶するかも・・・」

歩美ちゃん・・・俺はこのとおりで、戦えねー・・・

なあ・・・まだ、俺より元気なのは、歩美ちゃんだけなんだ。頼む！！俺の代わりに・・・仇を取ってくれ！！」

コナンは、ついに、頼み込んだ・・・

「えー！？ウーッソーー・・・」

歩美は、驚いて、猛烈血相を変えた。

「ちょっと待つて・・・それじゃ、あたしがいつもやってた、コナンくんの代わりをしるって言うの！？サッカーで倒せってこと？」

歩美は、啞然した・・・

コナンは、笑顔でうなずくと、キック力増強シューズを、脱いで、彼女に手わたす。

これに秘密があると、説明した。アガサ博士の発明だと話すと、歩美は、「もう・・・」と、

文句言いながらも、シューズに履き替えた・・・

「この、サッカーボールをあいつに向けて、思い切り蹴飛ばせ！！体育の授業でやってんから、少しくれーは、やれるだろ??」

このシューズはな、その威力を高めてくれる！！」

コナンは、勇気を出してくれと、説得しました・・・

「でも、あたしにこんなの・・・」歩美は、だいぶとまどっている。  
「無理もない。ごめんな・・・今までにない、少年探偵団としての、大仕事だ!!」

頼む！俺が側につく！だから・・・俺が気絶する前に・・・一緒に撃退しよう!!!時間が・・・ない・・・」コナンは、言いました。

「少年探偵団としての大仕事・・・」歩美は決断下すと、笑顔に切り替わる。

「やってくれるんだね!」コナン笑顔で、立ち上がる。

コナンは、最後の力を振り絞ると立ち上がった。

そして、シューズの使い方を説明しました・・・

歩美は、サッカーボールを地面に置くと、スイッチを入れて、体育でやっていた、

サッカーのけり方を思い出した。そして、「あんななんて・・・最低!!!」

と、涙ながらに叫ぶと、歩美は、ついに、「いつちやえー!!!」

と叫んだ。蹴りを入れた・・・

すると、光って、思い切りズダーン!!

ボールは思い切り、犯人にあたり、「うわーーーー!!!」

ドタッ!!

ふっとんで、気絶しました・・・

コナンは、笑顔で、「やったね!」と、ピースして言いましたが、その場で、目がくらみ、

バタツ！・・・またしても、気絶した・・・地面には、また、傷が開いて、血が・・・

「コナンくん！！」歩美は、側でギャーギャー泣き叫んだ・・・

後から見回りにやってきた、看護婦さんは、ビックリ。

事件は見事に解決となり、目暮れ警部は、「申し訳ない！！こんな卑劣な奴だとは！あきれた！！警察病院へと、転移しよう！！」

と、ひたすら謝り通し、犯人は無事ご用となりました・・・

こうして事件は無事解決しました・・・

一週間も、完治するのにかかってしまい、一週間後ようやく、楽しい夜が訪れました・・・

## 第4章（後書き）

これにて、事件は解決。次回は、イルミネーション！？

## 最終回（前書き）

連載小説のやり方がようやく、わかりました。  
ご迷惑をおかけして、すいませんでした。

前回投稿したやつは、いったん、消して、また、修正したい部分もありますので、綺麗にやり直して、投稿しなおします。

良かったやつだけ、残してあります。

読んで下さり、ありがとうございます。

まだまだ、文章が下手ですいません。これからも、  
よろしく願います。

## 最終回

こうして、事件は無事に解決しました。

コナンと歩美は、だんだん、元気に回復していき、コナンが、やっと、ベットから降りられるようになり、2人で、任天堂DSで、ケーブルつなげて、2人用で、遊んでいる姿が見られるようになりました。

そして、退院の日。

看護婦さんから、「おめでとう！」と、花束が贈られました……

こうして、やっと、博士が、「今夜、退院祝いで、見に行こうか！」と、笑顔で言いました。

「やったー！」歩美。「なあ、博士、クリスマスが、今年は、猛烈、散々だったからよ！

せめて、フランス料理でも、俺達に、ごちそうしてくれよ……たまにはさ……」コナンは、子供のくせに、すごい、贅沢なことを言い出した。

博士は、コナンの頭にゲンコツ一発食らわせた。

「アホ！フランス料理なんて、そんな高いもん、狙うでないわい！！子供は、ファミリーレストランで十分じゃ！！デニーズじゃ！！デニーズ！！」

それに、いろいろあるじゃろう？スカイラークに、ふじやで上等じゃ！！バカもん！！」

博士は、ケチりたいのをばかりにして、そちらに切り替えてしまいました。

「うー・・・」コナンと歩美はブーブー・・・

「食べれるだけ、ありがたいと思わんかい!!」博士は言いました。

こうして、「ハーイ!」2人は、揃って、ブーブー文句言うのだった。

その会話とは。

「ちえっ!クリスマスくらいせめて、たまには豪華で、いいじゃないか!ね〜!」コナンは、イヤミたらずで言いました。「ほんとね・博士のケチ!お金に対してケチるから、結婚出来ないのよ!」歩美。「おいおい・・・」苦笑いするコナンだった・・・

(ゴニョゴニョで、話している会話ですので、博士には、聞こえていません・・・)

博士は、歩きながら、ポケットに手をつ込んで、「フェックション!!誰か、悪い噂してるかのう・・・」と、首をかしげていた・・・

こうして、夜、イルミネーションと同時に、パレードを楽しんだ、2人は、「あっ!コナンくん・雪だ!」歩美は笑顔で言いました。「ほんとだね・・・メリークリスマス!歩美ちゃん・・・助けてくれて・・・ありがとう・・・」

コナンは、笑顔で、言うつと、キーホルダーを、プレゼントしました・・・

「ありがとう!」歩美は、笑顔で受け取りました・・・

・ こうして、事件は無事に解決し、笑顔で、自宅へ戻るのでした・・・

（終わり）

## 最終回（後書き）

今回、一番、書くことが出来た、初めての連載小説としての、投稿になりました！

これなら、大丈夫かと思えます。

いったん、綺麗にしておきましたので、すいません。  
では。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1599b/>

---

「名探偵コナン」～素直になれない！～

2011年10月3日17時00分発行